

地域運動部活動推進研究事業 成果報告書



令和 3 年度 柏市教育委員会

I 事業の概要

1 趣旨・目的

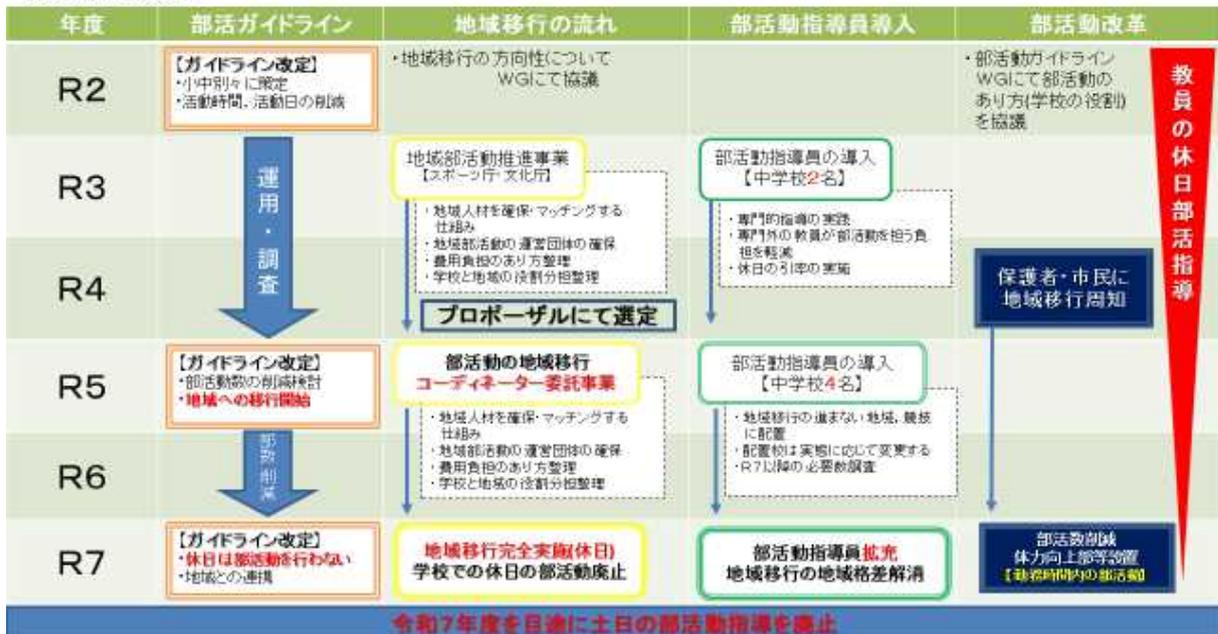
柏市は、令和5年度より地域社会体育団体と連携し、部活動の段階的な地域移行を進める予定である。本事業では、土日の部活動を中心に社会体育団体等、学校外の団体へ移行するための費用や学校の働き方改革への影響、専門的指導による効果等について研究することを目的とする。

2 構成

主体	大項目	小項目	事項
柏市	基礎情報	自治体概要	[人口]約 43 万人 [面積]114.74 km ²
	教育	学校数	[小学校]42 校 [中学校]21 校 [高等学校]1 校
	スポーツ環境	スポーツチーム	柏レイソル、JX-ENEOS サンフラワーズ、柏エンゼルクロス、積水化学女子陸上競技部、YBC 柏、J R 東日本野球部、柏 TOR' 82, T T C、柏ゴールデンホークス
		総合型地域 スポーツクラブ	NPO 法人スマイルクラブ、NPO 法人高田倶楽部、かしわレクスポクラブあそびん、柏の葉まちのサッカークラブ、一般社団法人フットボールアカデミー、柏の葉ビーチボールクラブ
拠点校	基礎情報	対象校	柏市立大津ヶ丘中学校
		学校規模	[生徒数]男 306、女 279、全 585 [学級数]1 年 6、2 年 6、3 年 5、特 3
		背景・理由	・ 専門知識を持った教職員が顧問になっていない。 ・ 顧問の時間外勤務時間が多い。

3 地域移行の計画

地域移行の流れ



教員の休日部活指導

4 直面している課題

- ・教員の超過勤務に対応した部活動改革
- ・指導や競技経験のない教員の部活動指導のあり方
- ・生徒、保護者の多様なニーズに対応する活動機会の確保

II 研究の具体的計画

1 地域部活動実施の背景

在校等時間の上限内で、教員が部活動を指導することを考えると、土日の活動はできない。GIGAスクール構想や新学習指導要領への対応等、これまで以上に教員の働き方について見直す必要もある。本市の各学校の部活動数では、各部活に複数顧問の配置が困難でもあり、土日の部活動を中心に部活動に代わる活動の場を地域が担う等、抜本的な部活動改革が急務となっている。

2 部活動の段階的な地域移行について

令和5年度より、部活動の段階的な地域移行を予定しており、各地域のニーズに応じて社会体育団体や文化団体を立ち上げるコーディネーターへの委託事業を計画している。

3 本事業の目標

- ・中学生の体育的な活動の振興を目的として活動する社会体育団体による、学校施設を利用した地域部活動を実践し、該当競技における教員による土日の部活動指導を行わない体制を構築する。
- ・専門的指導により、参加生徒の満足度について80%以上を達成する。
- ・運営に係る受益者負担額を算出する。

4 目標の検証について

- ・当該競技における教員の関わり方や所要時間を記録し、集計する。
- ・参加生徒及び保護者へのアンケート調査を実施し、満足度を調査する。
- ・必要経費と効果を検証し、受益者負担額を算出する。

5 事業の実施方法

- ・柏市立大津ヶ丘中学校ソフトテニス部を対象とする。
- ・柏市内にある社会体育団体による、土日を中心とした中学生対象のソフトテニス指導を実施する。
- ・社会体育団体に入会している一般の方との交流の場も設定し、技能レベルの高い者との試合等、ニーズに応じた活動を提供する。
- ・検証に係る費用のうち、謝金(指導者、事務局職員)、旅費(指導者、事務局職員)については、委託経費で負担することで、保護者の負担を軽減し、理解を得て実施する。
- ・市内社会体育団体に確認し、指導が可能な者の存在、見積もり、当該校との確認は終えている。

6 成果の普及方法

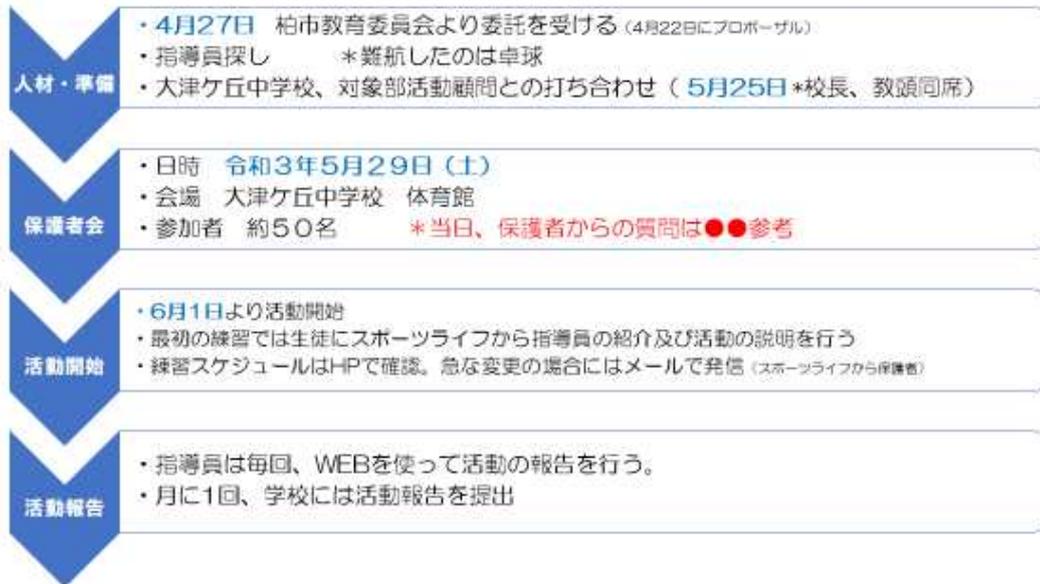
- ・令和3年度の調査研究においては、学識経験者等を交えたワーキンググループを実施する。
- ・令和5年からの市内全域での事業展開に向け、令和4年度に市民、保護者への周知を予定している。
- ・研究成果については、他市町村でも活用できるよう公開する。

III 研究の成果

1 地域スポーツクラブによる活動の運営

(1) 実施スケジュール

始動・活動経過・準備の流れ



(2) 開始前の準備

- ① 指導員探し
- ② 学校、教育委員会、生徒との連携・スケジュール管理
- ③ 運動用具・施設の管理・使用に関する調整

(3) クラブ運用に関する工夫



③業務報告（練習の活動報告）		
QRコード	使用目的	画面
	①練習報告 ②参加人数の確認 ③業務報告（ケガ・事故など）	
URL	https://forms.gle/mU3M3DvPmWYUe7E	

大津ケ丘スポーツクラブ 活動報告書 令和3年11月分										
報告者：特待生福利活動課 入スポーツライフ										
以下の通り、大津ケ丘スポーツクラブの令和3年11月の活動報告させていただきます。										
クラブ名	練習日	練習時間	参加人数	練習場所	練習内容	ケガの有無	その他			
男子ソフトテニス部	2021/11/6	練習	1200	18200	18	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
女子ソフトテニス部	2021/11/6	練習	9200	12200	18	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
バドミントン部	2021/11/6	先発	9200	12200	8	滋賀県立総合体育館	練習なし	なし		
卓球部	2021/11/7	練習	8200	11200	19	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
男子ソフトテニス部	2021/11/7	練習	8200	11200	19	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
バドミントン部	2021/11/7	先発	9200	13200	12	滋賀県立総合体育館	練習なし	なし		
卓球部	2021/11/13	練習	8200	11200	21	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
女子ソフトテニス部	2021/11/13	練習	8200	12200	16	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
バドミントン部	2021/11/13	練習	9200	12200	21	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
男子ソフトテニス部	2021/11/13	練習	1200	18200	17	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
女子ソフトテニス部	2021/11/20	先発	12230	18200	8	トヨタ運動場	練習なし	なし		
バドミントン部	2021/1/20	練習	12200	17200	20	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
男子ソフトテニス部	2021/1/21	練習	8200	11200	17	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
女子ソフトテニス部	2021/1/21	練習	8200	11200	17	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
男子ソフトテニス部	2021/1/21	先発	9200	13200	10	滋賀県立総合体育館	練習なし	なし		
卓球部	2021/11/22	練習	11230	14200	16	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		
バドミントン部	2021/11/23	練習	9200	12200	20	大津ケ丘中学校	練習なし	なし		

↑
①活動後はWEBで報告

↑
②スポーツライフで集約し
月間の活動報告を作成
③謝金の支払い

(4) 参加人数及び実施回数

登録人数：①指導員 4人

②生徒数 1年生 56人 2年生 40人 3年生 39人

*男女比率

男子 53人（1年生 23人 / 2年生 18人 / 3年生 12人）

女子 82人（1年生 32人 / 2年生 22人 / 3年生 28人）

活動回数と参加人数 *12月まで

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(内大会遠征 学校外の活動)	合計活動数	平均参加人数 (生徒)
バドミントン部	3	6	3		3	6	6	3	27	20.7人
卓球部	3	5	1		2	3	2	0	16	24.6人
男子ソフトテニス部	3	1	0		4	3	3	1	14	18.3人
女子ソフトテニス部	2	5	2		4	6	3	5	22	17.1人

*コロナ感染予防のため中止

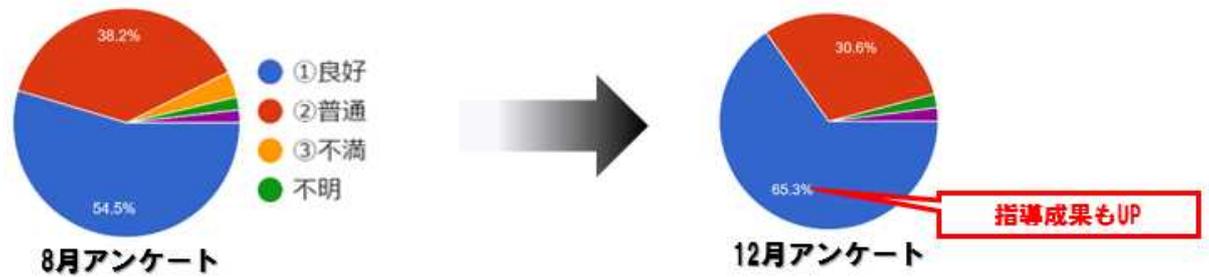
*学校外での活動場所 富勢庭球場 沼南体育館 とみせ運動場 滝井運動場 沼南体育館 県立船の要公園オムニコート

2 拠点校における成果

(1) 活動に関する満足度



(2) 指導に関する満足度



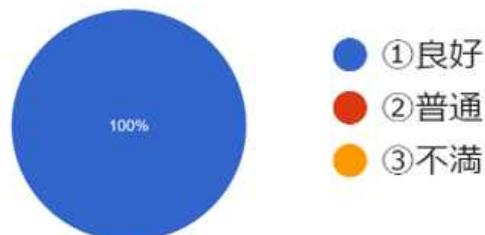
(3) 活動に関する満足度



(4) 業務改善に関して



(5) 顧問から見た指導内容



3 柏市ワーキンググループについて

(1) 日時

令和4年1月25日(火)

(2) 内容

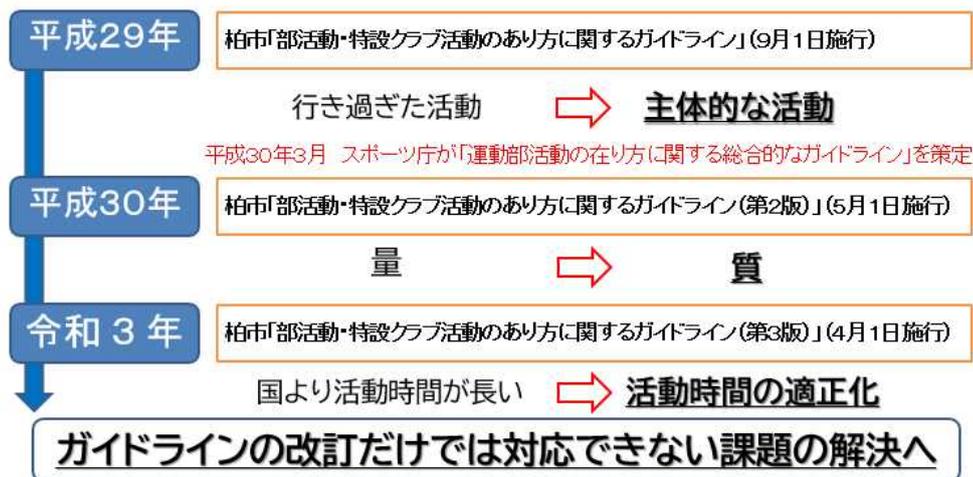
- ・ 柏市の地域部活動のあり方
- ・ 令和3年度研究事業の成果と課題
- ・ 地域部活動コーディネーター事業のあり方について
- ・ 保護者・市民への周知方法について

(3) 参加者

学校関係者(校長会代表・教職員代表・顧問代表・小中体連代表)、保護者代表(市P連会長)、NPO法人関係者、教育委員会関係者

(4) 協議内容

① 柏市の部活動に関するこれまでの取組



② 地域移行が必要である根拠

公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン

1か月の在校等時間について、**超過勤務45時間**以内(年間6か月)

⇒ 平日2時間×週5日×月4週=**月40時間**

1年間の在校等時間について、**超過勤務360時間**以内

⇒ 月30時間÷20日=**1.5時間(1日)**

勤務時間の上限内で休日の部活動指導は持続できない

在校等時間の現状

①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭等の校種別割合

職種	小学校	中学校	高等学校
教諭等	47.3%	60.6%	35.8%

②月当たりの時間外在校等時間(校種別)

職種	小学校	中学校	高等学校
教諭等	44時間36分	59時間24分	41時間46分

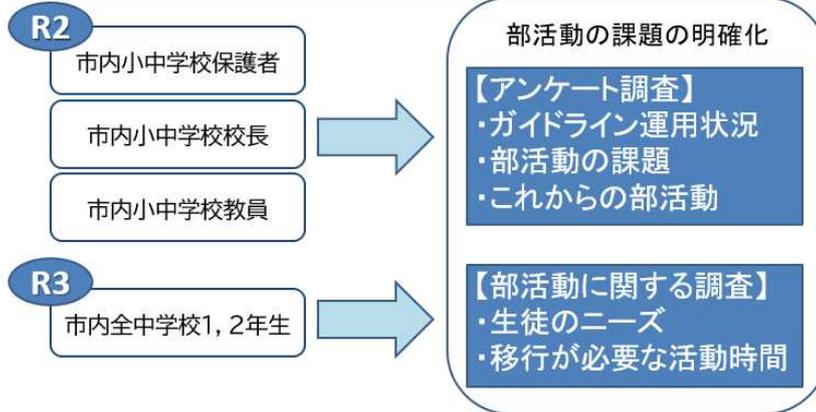
※ $59 - 3 \times 5 = 44$ 時間

(R2. 11月)

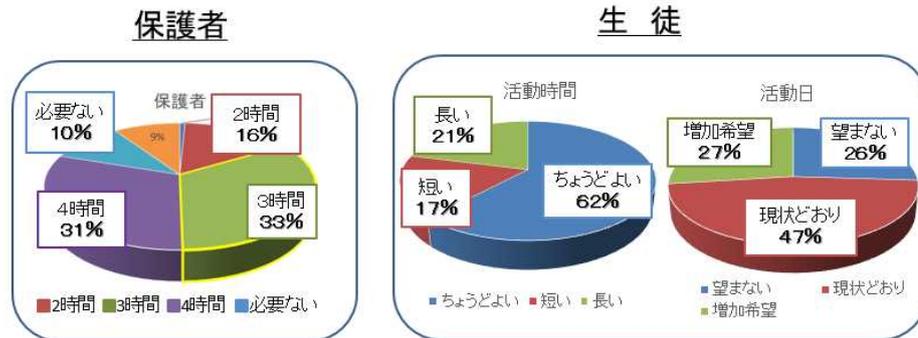
令和2年度「教員の出退勤時刻実態調査結果(速報値)」(千葉県教育庁)

③アンケート調査の報告

「部活動に関する(調査)」について



生徒・保護者のニーズの多様化

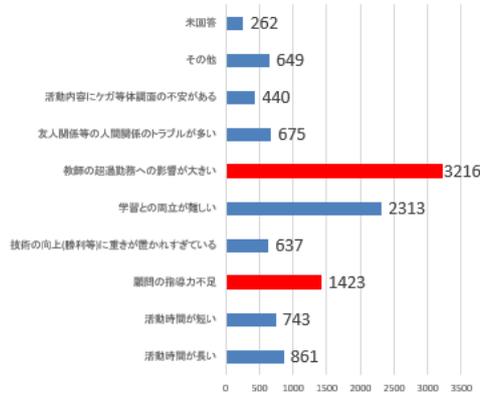


土日の部活動に関する希望調査

部活動の課題と考えること

(R2 部活動に関する調査)

保護者



先生



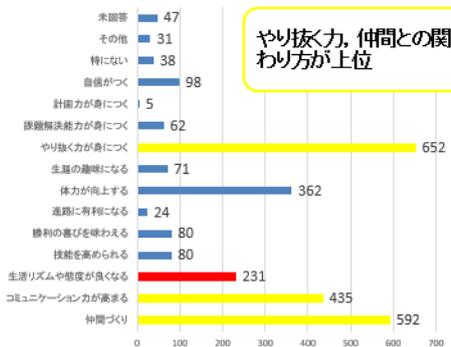
超過勤務や指導力についての課題が上位となっている

部活動に最も期待していること

(R2 部活動に関する調査)

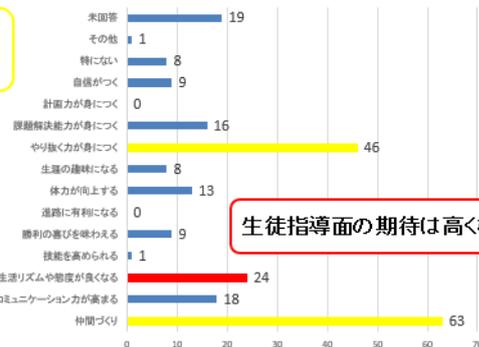
中学校

保護者



やり抜く力、仲間との関わり方が上位

教員



生徒指導面の期待は高くない

部活動に参加する目的

(R3 部活動に関する調査)

生徒

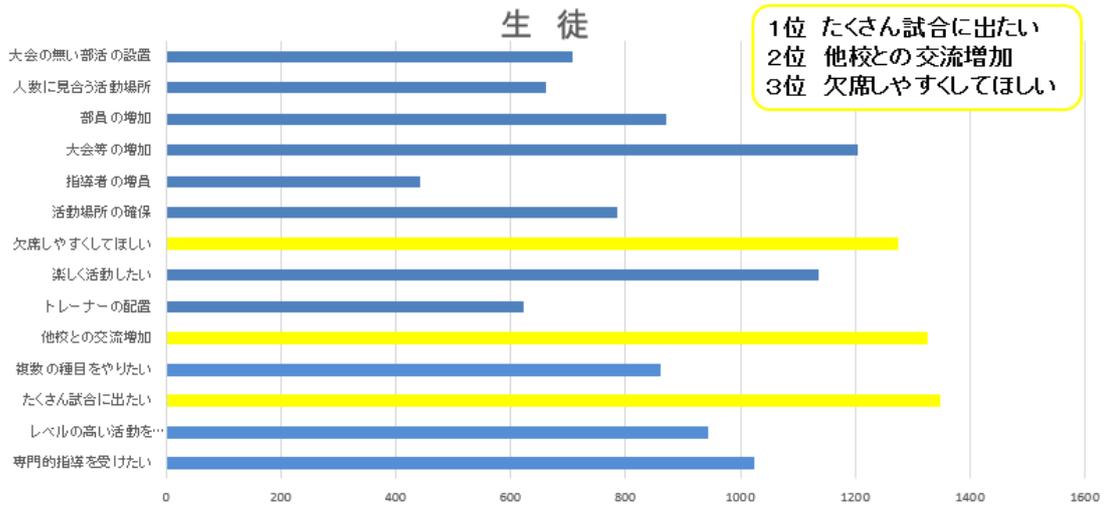


個人の興味関心が高い

勝利を目的にする割合は低い

改善してほしいこと

(R3 部活動に関する調査)

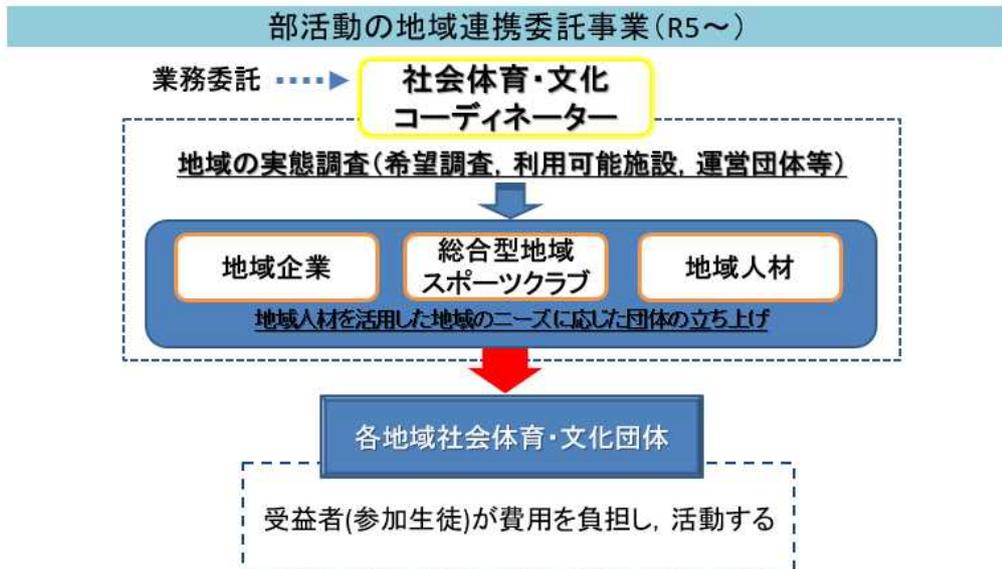


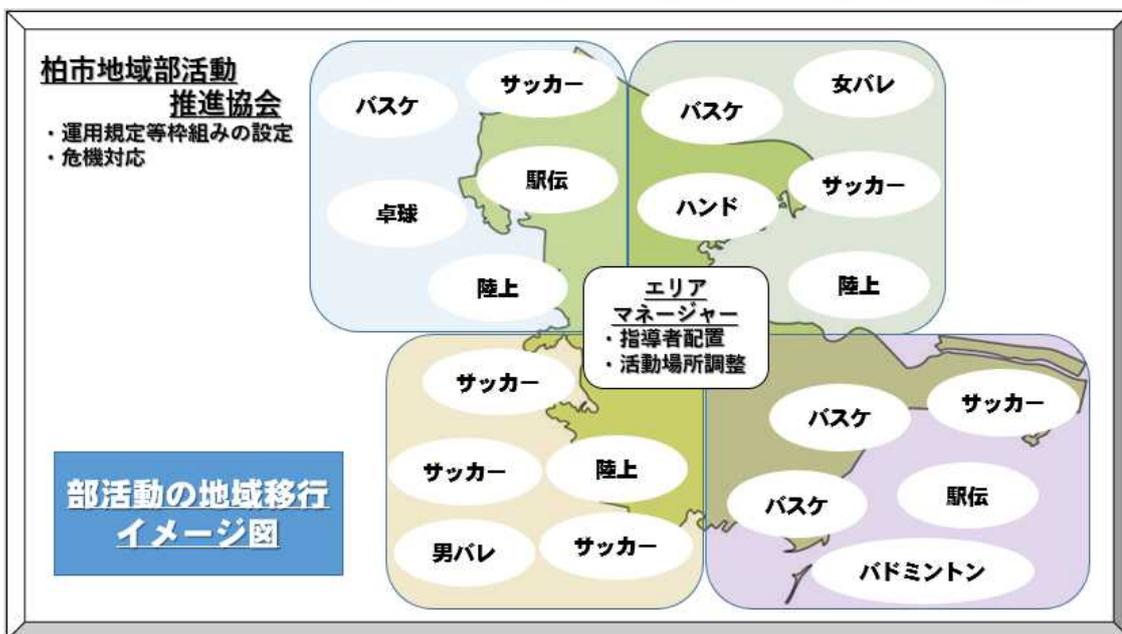
④ 地域移行の方向性

拠点校における実践において、指導者の募集、参加費の徴収、緊急対応窓口の設置、報酬の支払いシステムの構築、活動場所の調整等、地域の受け皿となる団体が担うべき業務が多岐にわたることが明らかになった。

持続可能な体制づくりには、これらの業務を効率よく、組織的に行うことが必要不可欠であり、地域移行の初期段階では、調整役を担う団体等の設置が必要と考える。

柏市では、地域移行コーディネーターを配置し、これらの調整を行う予定である。



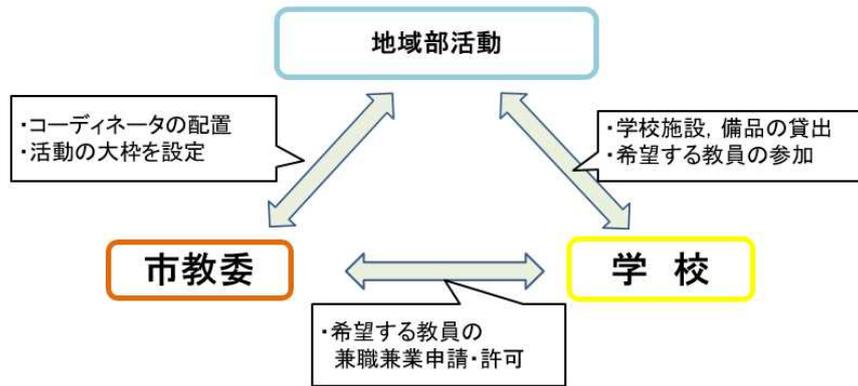


⑤ 地域部活動推進協会の設置 (仮称)

地域部活動の安定した運用のために集金や支払い、危機対応の窓口等、地域部活動の大枠を担う団体の設置が必要であると考えている。こちらについてもコーディネーターが中心となり、立ち上げる予定である。

また、希望する教員の兼職兼業や学校施設の貸出に関して各種団体ごとに判断していくことが予想されるが、地域部活動推進協会に所属する団体であれば、同様の活動内容や指導報酬とみなすことができると考えている。どちらも窓口が学校となるため、負担軽減の効果も見込まれる。

想定される学校の役割



兼職兼業について

1 報酬について

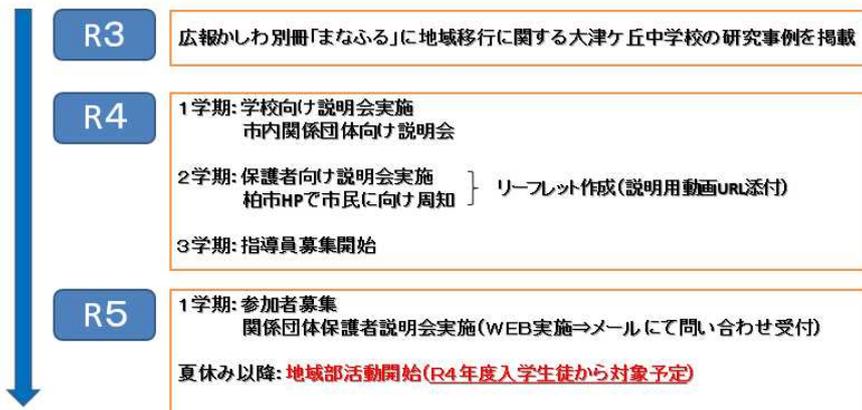
教育委員会内から、柏市地域部活動推進協会に対し、報酬の目安を示す。(許可については同一の上限を設ける)

2 許可要件について

在校等時間が設定範囲内の教員にのみ、兼業を許可し、週当たりの指導時間についても上限を定める

⑥ 保護者市民への周知スケジュール

市民・保護者への周知等スケジュールについて



広報かしわ別冊「まなふる」(R3.11.15)